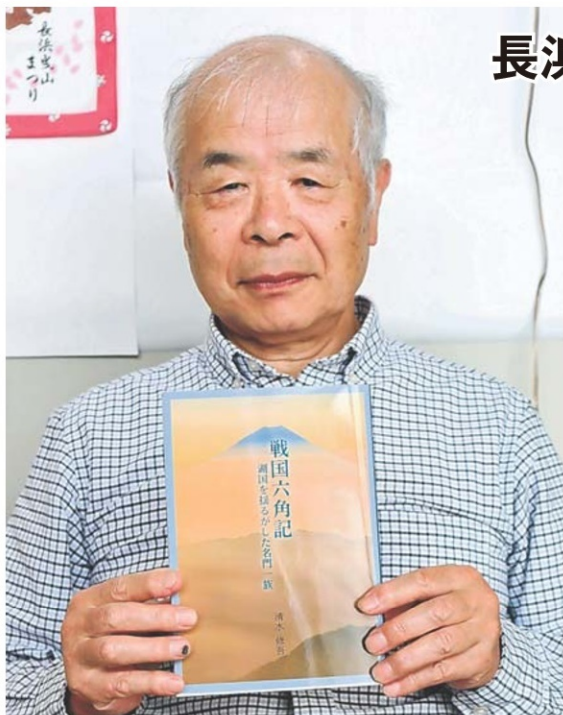


# 六角氏興亡臨場感あふれ

## 長浜の元高校教諭 自費出版



自費出版した「戦国六角記」を手にする清水さん(長浜市内)

元県立高教諭で郷土史を研究する清水修吾さん(78) 長浜市三田町が、鎌倉・戦国時代に近江南部を支配した六角氏の興亡を記した「戦国六角記」を自費出版した。六角氏が拠点にした観音寺城(近江八幡市)の城跡を訪れるなど調査研究を重ね、史実に立脚しながら理解しやすい歴史小説風にまとめた。

清水さんは、1970年から2008年まで県立高で日本史の教諭を務めた。退職後は郷土史の研究を続け、22年には地元・三田町の歴史をまとめた「三田村一族の謎」を自費出版した。出版後、関心は近江南部にも広がり、今回は六角氏を取り上げた。六角氏は近江国守護職佐々

## 郷土史研究重ね 「湖国の歴史 面白い」

木氏の総領家で、現在の湖東地域で勢力を持った。観音寺城跡は戦国期の山城の姿を伝えており、国の史跡に指定されている。

「戦国六角記」では、六角氏の歴史を6章にわたって記した。自身で撮影した観音寺城の石垣も掲載している。このうち終章では、1568年の「観音寺城の戦い」で織田信長に攻められた六角義治が城を明け渡して甲賀方面に脱出した経緯などを臨場感

いっばいに記述している。清水さんは「六角氏は敵に城を明け渡すなど、したたかに生き延びた一面もあった。読めば『湖国の歴史は面白い』と実感してもらえるのでは」と話している。

A5判、107ページ。5000部を作った。税込み1500円。問い合わせは、電子メール [shimizus513@zb.wakwak.com](mailto:shimizus513@zb.wakwak.com)。

(川村一郎)